

激震するイラン情勢と国際エネルギー市場

衆議院予算委員会@衆議院本館3階第1委員室 報告資料

2026年3月10日

(一財) 日本エネルギー経済研究所 専務理事・首席研究員

小山 堅

激震するイラン情勢

- 今般の攻撃開始以来、未曾有の激しい対イラン攻撃が継続
- イランの「Regime Change」を視野に入れた軍事攻撃
- それ故に、イランは「捨て身の報復攻撃」を継続
- その一環として実施されたホルムズ海峡の実質的封鎖
- 周辺諸国の軍事（米軍関係）・エネルギー設備等への攻撃
- 米国にとっての「コスト増大」を狙う「捨て身の攻撃」
- 米国はさらなる大規模攻撃実施も示唆
- 極めて不透明な今後のイラン情勢

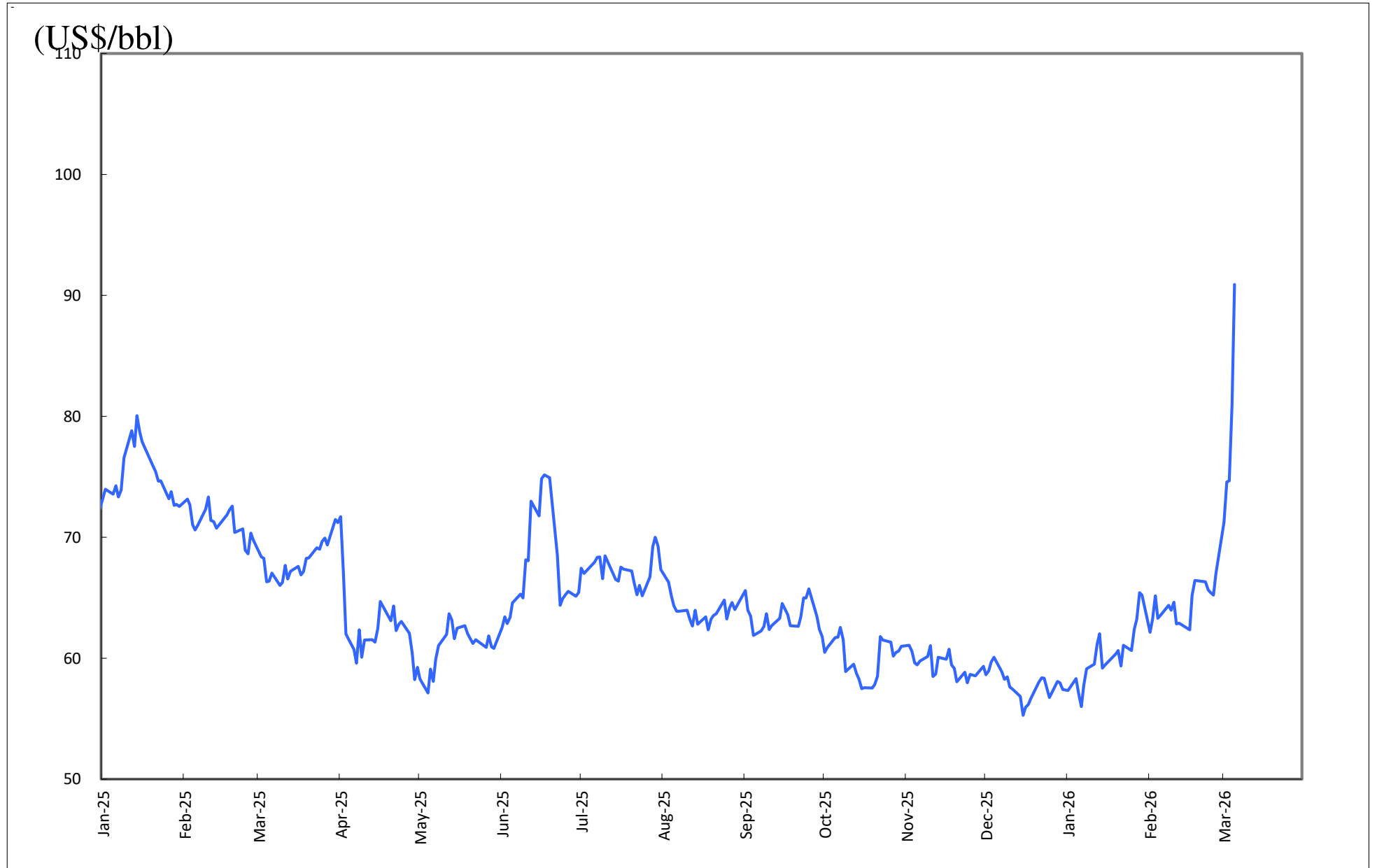
ホルムズ経由エネルギーフロー遮断の現実化

- これまで取沙汰されても現実化しなかった遮断
- 「捨て身の報復攻撃」実施で、タンカー通行不能に
- 湾岸産油国のエネルギー施設もイランによる攻撃対象に
- 石油2000万B/D、LNG年間8000万トン、いずれも世界の供給量の約2割
- この巨大数量を代替できる生産能力は何処にも存在しない
- 原油にはサウジ、UAEにホルムズ迂回のパイプライン能力が存在。しかし全ホルムズ通行量には遠く及ばない
- 通行不能期間が長引くほど需給逼迫懸念は高まり、原油・石油製品・LNG価格は高騰へ。暮らし・経済への大きな打撃
- 需給逼迫が深刻化すれば、供給確保の争奪戦の可能性も

国際エネルギー市場への甚大な影響

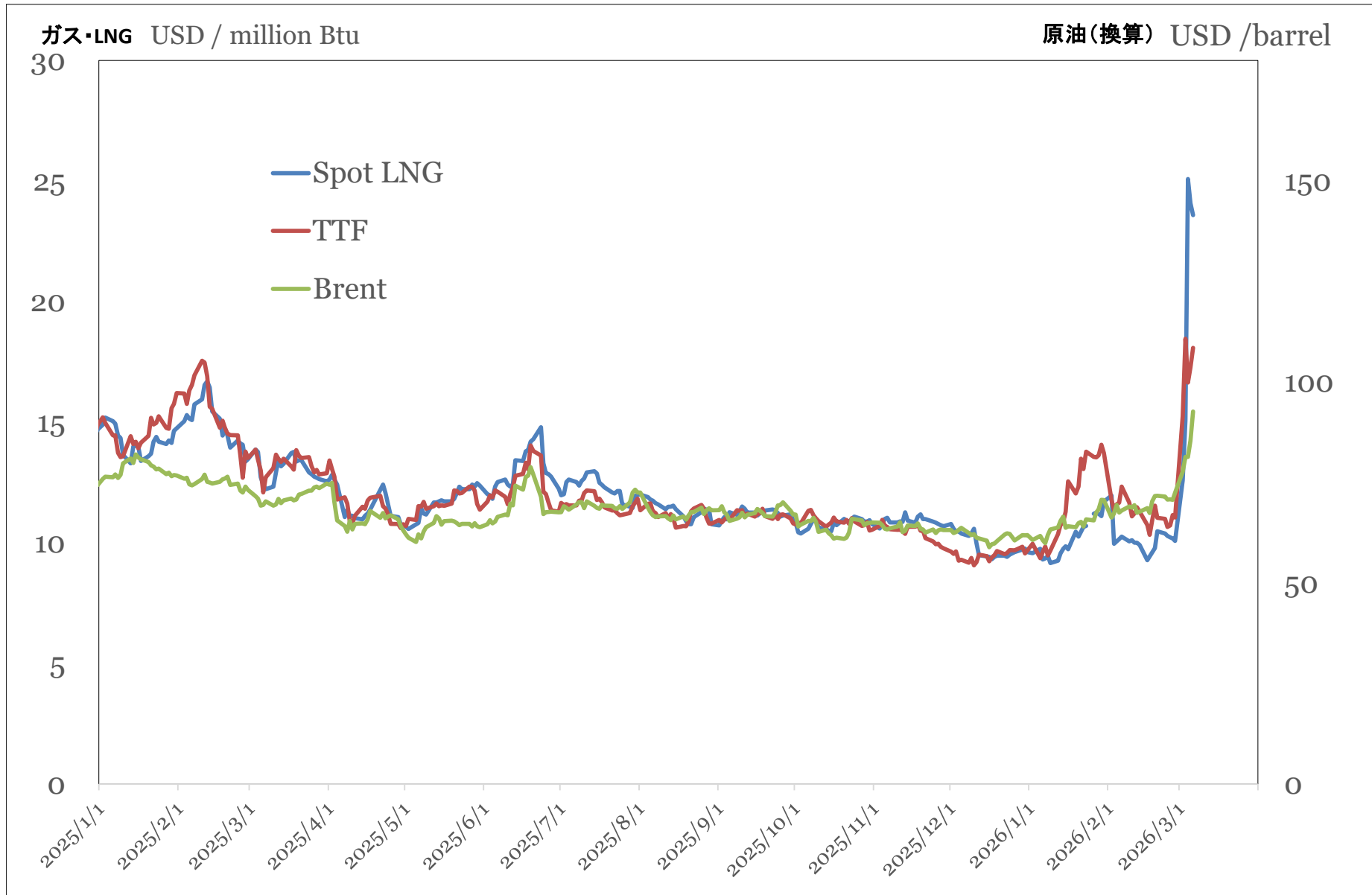
- 供給低下と先行き不安から原油は一時的に110ドル突破も
- 通行支障長期化で価格にさらに上昇圧力の可能性も
- 中東産油国は重要な石油製品輸出国。製品にはホルムズ迂回PLもなく需給逼迫は深刻。欧州などで価格上昇も顕著。
- 国際市場全体にとってホルムズ経由LNG供給は極めて重要
- LNG供給低下でスポットLNG価格や欧州ガス市場など国際ガス・LNG需給が反映される市場では原油以上に価格高騰へ
- 他方、原油価格連動型のLNG供給の価格変動は相対的に「Moderate」であり、価格反映にタイムラグも
- 大幅な価格高騰は世界経済を減速させ、輸入国経済には大打撃。暮らしも直撃

2025年はWTI価格低下進行、しかしイラン情勢で急騰へ



原油価格と天然ガス/LNGスポット価格

LNGスポット価格はイラン情勢で原油以上に急騰へ



日本のエネルギー需給構造の課題

- 石油依存度は低下したが今も約4割、最大のエネルギー
- 原油の中東依存度は9割超。著しく高いホルムズ依存度
- 国内に250日分超の石油備蓄が存在。国際協力体制も整備
- LNGは発電燃料、都市ガス原料として極めて重要
- LNGはアジア太平洋からの長期契約による輸入が主体。ホルムズ依存度は6%。
- 国内のLNG在庫は約3週間分程度
- 長期契約枠内での追加供給確保や柔軟性の高い米国LNGの活用が重要

懸念される日本への影響と今後の対応

- 今後の油価上昇は日本経済と国民生活への深刻な影響要因
- 油価上昇は、原油連動で価格が決まるLNG価格上昇によって、タイムラグを伴いガス・電力料金上昇へも波及
- 日本のホルムズ経由の石油輸入は極めて巨大で、その分の代替石油確保は困難
- 事態の長期・深刻化の場合は強力な「総合対策」、エネルギー節減、可能な分野での石油代替、備蓄活用が必要に
- 備蓄など緊急時対策ではIEAなどとの国際協力が重要
- ホルムズ経由LNG代替に向け、既存長期契約条件内での追加供給確保、柔軟性あるLNG供給確保が重要に
- LNG在庫に限界がある中、発電用LNG需要に関しては他の電源による代替及び省エネ・節減が不可欠。